第１回　香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会
議事録

■開催日時：令和５年８月３０日（水）14:00～16:00
■開催場所：のいちふれあいセンター２階　研修室
■出席委員：受田浩之委員長、石丸典男委員、小笠原由美委員、中脇正人委員、森川良奈委員、
古川和佳委員、近森和香奈委員、北川佳代委員、國松美紀委員、三浦裕司委員、別府誠委員
■事 務 局：弘田地域支援課長、萩野商工観光課長、小松農林水産課長、猪原こども課長
中島情報政策課長、西内企画財政課長、近藤企画財政課長補佐、刈谷、宮﨑

【次第】
１．開会
２．市長あいさつ
３．委員長あいさつ
４．委員委嘱および自己紹介

５．議事
（１）香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて
（２）令和４年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和５年度の新たな取り組みについて
（３）「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について
（４）デジタル田園都市国家構想について

■事務局より当日配布資料の確認

■委員長　　本日の議事に関しては、ご覧いただいた（１）～（４）となっている。
（１）の香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、これがまず一番の基準になるもの。後ほどご紹介があるが、2060 年に向かって、香南市の人口がどうあるべきか、これは元々、国立社会保障・人口問題研究所　通称社人研といいますけれど、社人研の予想に対してどれぐらいあるべきかという数字を、これまでに香南市として掲げてきている。これがまず基準である。その人口を維持あるいは下げ止めていくという点について具体的に、その下にある目標達成状況及び新たな取り組みということで人口ビジョンの実現に向けてというのが、この委員会のタイトルである「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というこの戦略に基づいているということになる。
この目標がどれくらい達成されているか、それに従って人口の動態がどうなっているかという視点で（１）（２）の報告と意見交換をしていただきたいというのが、まず本日の大きな趣旨である。
一方で（３）に魅力ある香南市をつくるアンケート調査について、という表題がある。香南市のこの総合戦略・人口ビジョンというのは、市長がこども中心ということで

市政を運営しておられるということもあり、魅力ある香南市をつくるために子ども達の目から見てどうあるべきか、ということを小学校６年生、中学校３年生、そして 18 歳の市民の方々に伺ってその意見を取りまとめて、この総合戦略に反映していこうという、こんな流れになる。この取り組みは高知県 34 市町村において独自の取組である。他にはない。そういう意味では、際立った総合戦略であり、運営の仕方であるという風に位置づけることができると思う。また、日本には市町村は 1718 あるそうですけれども、その中でもやはり特徴的であるという風に考えていいと思う。ですからこの特徴を活かしていくこと、また子ども達の声を拾ってしっかりと受け止めて、それを施策に反映していこうという観点で、ぜひこの策定委員会の委員の皆様にもさらに忌憚のないご意見、あるいは、こうあるべきではないかという大きな話も是非していただきたい。

そして（４）はデジタル田園都市国家構想についてということで、ちょっと毛色が違うが、国はこれまでまち・ひと・しごと創生総合戦略ということで 2060 年に向かってそれぞれがどう考えていくかという運営をしてきた。それが先ほども DX の話があったように、デジタルの視点を入れることによって人口ビジョンの実現あるいはそこに繋げていく総合戦略の実質化という部分がもっと前倒しになったり、上方修正できるのではないかという期待感がある。今後、来年度以降デジタル田園都市国家構想に基づいた総合戦略という形に建付けの部分が少し変わっていくということを含め、（４）で現状とこれからについて少し意見交換させていただこう、という作りになっている。

ということで（１）～（４）全部関連しておりますので、今日の進め方としては、順番に一括で説明をしていただこうと思う。そして、その後（４）のデジタル田園都市国家構想を少しまとめたうえで（１）と（２）、そしてそれに（３）を絡めて、自由に委員の皆様からのご発言、ご質問いただくということで４時終了予定でありますので、できるだけ効率的に進めてまいりたいと思う。議事進行にもよろしくご協力のほどお願いしたい。

それではまず（１）の人口ビジョンから順次ご説明を一括でお願いする。

■事務局　（１）香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて説明
（２）令和４年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和５年度の新たな取り組みについて説明
（３）「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について説明
（４）デジタル田園都市国家構想について説明

■委員長　一括でご説明いただいたので、一方的にお聞きいただいたということで、集中がなかなか難しかったとところがあるんじゃないかと思うが、ここからは、フリーに議論していきたいと思う。順番としては一番最後のデジタル田園都市国家構想は、長ったらしいので略して「デジ田」と言っているんですけれども、デジ田についてご質問があればいただきたいと思う。これについては今説明していただいたとおり、こういう

構想が令和５年度から始まる。今、令和５年度ですから本格的には、来年度以降、香南市において議論しております、まち・ひと・しごと創生総合戦略にデジタルの味付けをして改訂していこうという、それが本格的に議論されていくということになる、という計画をお話していただいたということである。これは事前にご理解いただければスムーズにスタートが切れるという趣旨であったので、それほど深い議論を本日していこうという趣旨ではない。何かご質問がありましたらお受けしたいと思う、デジ田についていかがか。

■委員　（質問なし）

■委員長　それでは（４）についてはここまで。あとは（１）（２）（３）だが、アンケートに関しては、趣旨として今年度アンケート調査を例年に習った形で、定点で観測するということで、設問もこれまでを踏襲して実施をしたいということでよろしいか。恐らく、子どもさんがいらっしゃるご家庭にはこういうアンケートを小学校６年生、中学校３年生で実施しているということは直接関わっていただいたり、何らかの形でお聞きいただいていたと思う。今年度もこうやってアンケートを実施し、その結果を経年的に比較しながら、そして願わくば、まち・ひと・しごと創生総合戦略において色んな施策が実施されていることによって、それと連動してアンケートの結果が変化していくというのが一番理想的なのかなという風に思う。ただ、子どもさんたちが市の施策を肌感覚ですぐに実感して、「良くなったぞ」と言うには短期間で効果がみられるものではないかもしれないので、その辺りをどのように理解していくかというのはポイントになるのではないかと思う。アンケートに関しては子どもさんを育てている世代の皆様にはかなり身近な話だと思うが、今年もこうやってアンケートを実施することについて何か質問やご意見があればここについて先にご意見いただきたいが、いかがか。

■委員　意見をくださいということで、ちょっと違うかもしれないが、子ども達の答えをみると、公園が欲しいとかコンビニが無いとか、単純な答えである。きっとこういう答えが返ってくるんじゃないかなと、私の子ども達を見てもわかるが、基本的なこと、農業だったらきれいな水ができて初めておいしいお米ができるんだよ、とかいうようなことを実感してほしいので、海にはゴミが溢れててその魚を結局人間が食べるんだよとか、自分たちがやったことは自分たちに返ってくるよということを肌で感じるというか、基本的なことを常日頃から子ども達には知ってほしいし学んでほしいと思うので、市をあげて取り組むところの基本的なところはまず地球を大事にするとかそういうことであってほしいなと、子育てをしてる私は思う。

■委員長　恐らくこのアンケートが子どもさんたちの素直な思いというところで一定の数字で表現され、あるいは、本日ここには書いていないが、個別の記述式の回答もあって、

これもしっかりと受け止めていただくように、みんなで共有することをやっている。ずっとやっていて変化しているものがあったり、あるいは先ほど経年的な変化をご覧になられてほとんど変わってないものもあると。仮に一次産業として農林水産業の魅力がもっと子どもたちに上がってほしいのに、変わらないのはなぜなのか、つまり、この結果をどうやって改善に繋げていくかというところが、このあたりから徐々に踏み込んでいかないといけないのではないかと思う。そうなると今、委員がおっしゃったように、そもそもアンケートだけ取っていても変わらないんじゃないか、そこに関する教育が寄り添って行き、それを市のあり方と連動させることによって変化というのを導いていけるのではないかということですよね。そうなってくると例えば教育委員会がどうやってその教育コンテンツとして独自のものをプログラム化していったらいいのか、さらに次の段階に行くと思う。これまでも総合戦略の話、委員が産業振興計画のその農業部会ということで自己紹介があったが、それぞれの産業として子ども達の教育を、担っていくか、あるいは一緒に取り組んでいくかとか、という視点が出てきた。これまでを振り返り、委員の皆様からも「昔はこうだったとか、こういう教育プログラムを週休二日になった土曜日にはやっていた」とかいう話はあったんですけれど、この辺りをもう少し具体的に企画をしてという話に繋がっていくでしょうね。

あくまでこれがデータですけれど、その次にどうチャレンジしていくか、これがそろそろ連動していかないといけないということかもしれない。ここは市としても真摯に受け止めてその次というところをお考えだと思いますけれど、その点の意見が出たということである。ということで、また意見をうかがうようにします。アンケートについていかがか。さらに何かご意見は。

■委員　今のご意見から思ったことだが、もっと、香南市がこの取り組みをしているということを子ども達が知らないといけないかなと思ったんですけれども、「こうなんの未来」の冊子を見たときに、18 歳がこの冊子を開くかな、と思った。前に県の別の事業で依頼があった際に、18 歳から 50 歳の女性向けの SNS を作るから、それについて考えてくれと言われたときに、18 歳の気持ちは分からないぞ、と思った。自分にはこれくらいの年齢の子どもがいるので、冊子の表紙の子どもがかわいいなと思って開くと思うが、大学１年生がこの冊子を開くかな、と思う。まず 18 歳の皆さんがこの冊子を開く、開かせる、ということをもうちょっと考えて、作り直すことがあったらそれくらいの世代の意見を取り入れたものを作った方が良いんじゃないかと感じる。

■委員長　小学校６年、中学校３年、18 歳の皆さんにアンケートを実施するにあたって、現状をご理解する上での参考資料という扱いですよね、先ほどの資料（冊子）は。逆に言うと、幅広い年齢層 12 歳から 18 歳まで、特に成長の大きな１年違いで段階があるような年齢層ですから、今委員からご意見あったように、小学生が開くものが 18 歳が開きやすいものではないかもしれない。その逆も当然考えられる。なるべくそういう意

味で、よく見ていただけるものにしないといけないよね、と。それと今の趣旨はアンケートの実施の一つの目的は、アンケートで対象世代からご意見いただく、これ一つ当然あるんですけれど、このアンケートで学んでいただくことによって、行政を知っていただくという目的も大きい。ということは、これをいかに開いていただいて読み込んでいただくかというのが二つ目の目的に対して重要になってくる。少し今の意見も参考にしていただければと思う。

■委員　　私は娘が二人おりまして、下の娘が 18 歳でアンケートに答えているのですけれど、香南市は住みやすくて自然も豊かでということは娘も言っている。それと農業については、祖母が長年ニラを作っていたので身近には思っていたと思う。ただ、漁業とか林業については全くわからないし、働き口とか、希望する仕事があるかどうか、というのもわからないと言いながら答えてはいたのですが、その点、やはりちょっと知らないということがあるので、かなり色々市で教材を作ったり、子ども達向けにやっていると思いますが、そこがちょっと答えるのが難しいかなと思った。

■委員長　　すごく重要なところに意見が及んでいるという風に思う。要は一次産業の担い手というのが香南市の市として行政として見ていく上では、その担い手をいかに確保していくか。それを、未来を背負っていく若い世代にどれだけ魅力を訴求できるか、ここが将来の非常に大きなポイントになっていく。そこに意識がどれくらいあるのかということを聞いていくと同時に、意識が高まりどうやったら魅力的に感じてもらえるか、そこにギャップがあるということ。そのギャップをどうやったら埋められるかという点をしっかりさらに埋め合わせていかなければ、いつまでも同じパーセントでアンケートの結果は推移していくだろう、という前提で今のご質問ご意見がずっと出ているような気がする。これからそこをやっていかないといけないフェーズに来ているということかと思う。

アンケートの話もしていきたいですけれども、この辺から遡って、そもそも人口ビジョンの話があった。じゃあその人口ビジョンについても、先ほどのご説明にあったとおり社人研の推計からみてどうなのか、市が目標にしている期待値と比べて現状がどうなのかというところでお話があって、一言でいえば期待よりも下回っているということである。ですから、2060 年に向かって市の目標にしている人口を維持するのは今結構厳しい状態である。ただ、相対的に他の自治体との比較がないので理解しづらいかもしれませんけれど、高知県内の他の自治体から見ると香南市は非常に優秀である。優秀という表現で良いのか分からないが、期待に近い。もっと大きく減少してるところがほとんどですので、香南市はその中でも頑張ってる自治体だと思っている。それでも下回っている。そこに、もう少し期待に合うぐらい、あるいはそれを超えるくらいの人口の維持を目指していくために、先ほどの（１）から（２）の取り組みがあるということになる。相当広い分野での取り組みと現状の評価、それから現状を踏まえての来年度の改善のポイントを一括してご紹介していただいたので、なかなかポ

イントがわかりにくいかもしれませんけれども、ご関心のあるところでも構いません、説明がなかったところでも構いませんのでご質問やご意見があればぜひお願したい。

■委員　　人口ビジョンの資料 1-1 の５ページですが、グラフを見ていますと、野市町だけが飛びぬけて人口も世帯数も増えている。どうしても香南市については海岸ぶちが多いため津波の心配がやはり一番ネックになってくるのではないかということで、香我美町の岸本付近、赤岡、夜須、吉川すべて海岸ぶちで、人口が増えているのは野市だけで、あとは下がっているという現状で、トータルしたら人口が減少しているということで非常に厳しい部分はあると思う。そういった中、野市町については人口が増えていると、特にフジグランの周りはまだ開発がかなり進んでくる。そういった中、合併前の野市町については水路が合併前のままである。それに対して人口が増え、住宅が増えていく中で、やはり雨水排水がかなり水位をあげている。この前の台風６号・７号の現場を見に行っていますと、やはりフジの南、ハマートの南が増水して野市整形医院の駐車場が浸かっていた。それから西へあふれて道路が水没していた。これが、下井川といって、西町からフジの南側になる河川。まだこれから開発が進むと、今の水路状態だと近隣の住宅に水がかなり入っていく。「想定外」とよく言われますけれど、こういうことが起きてくると市の方にも苦情がかなり来ると思う。市長もご存じと思うが、やはり水路改修など、こういうところから開発しないと、ただ人口を増やすだけでは、後の被害が出てくるので、ここのところをやはり検討していかないといけない。資料 2-7「まち・ひと・しごと」で市長や市の方も野市町以外に住宅を建てる方に 50 万円の補助をしているという形をとっているので、極力、香南市全体の人口を増やしていくような方向で、津波の来ない香我美町の山間部や佐古など、そちらも宅地が増えてきてはいるが、やはりフジ周辺が一番のネックになるのかなと、立地条件が一番いいので気持ちはわかるが、そこ（フジ周辺以外）の開発をやはり検討していかねばならないという風に思う。

■委員長　　立地適正化計画ではないですけれども、香南市としてはゾーニングの議論をこれまで進め、さらに、治水の問題というところをゾーニングによってどう適正に配置していくか、あるいは、今後の人口増加を期待しつつ、どのように開発をしていくかというところを、多分ずっと検討もしてる部分だと思うんですけれど、今のご意見に対して何か。

■市長　　委員ありがとうございます。おっしゃったとおり、私はこれまで自分の中で反省しているのが、この６月の市議会でも答弁させていただいたのですが、専門的な話になるので他の委員の方は難しいと思いますが、今、物部川の町田堰から流れてくる下井川の水を父養寺で一回落とし、その次に、下段で落とすという計画があり、それができたら一定落ち着くかなと思っていた。しかしこの７月・８月の豪雨を受けまして、

緊急的な事態だということは本当に承知しましたし、実際に担当課である建設課、農林水産課、農業委員会含めて、これからまずできることと、そして大胆にやらなければならないということをしっかりと進めている。雨が降る度、台風の情報が来るたび常に備えなければならないような状態であることは我々自身も承知している。まず今住んでいる方が安心して暮らせる体制というのを、それと、委員長からの話でもありましたように、ゾーニングであったり様々なことを、一定は、もっと前から予想はついてきたことじゃないかなとも思うが、一方で、予想よりはるかに早い段階で宅地化が進んでいる。農業の現状もありますので、急ピッチでそれが進んでいく中で、開発についても、開発したい方と開発を危惧されている方の間での意識の違いも今出ている。当面、我々としては、今日も関係課と話しをする中で、我々が大切にしなければならないのは、今住んでいる方の安全をいかに確保するかということ、それとしっかりと今後の未来を見据えた対応をしていくということを取り組んでいきたいと思う。先ほどの委員のご指摘、急ピッチで進めていくように取り組んでいますので、またしっかりと示していきたいと思う。

■委員長　いろんな意味で同時進行していかなければ、ひずみがどこかに出てしまうと市民の方の生活に支障が出るということですので、今の市長のコメントを含めて共有をして今後に向けて改善を図っていただければと思う。引き続きご意見・ご質問あれば。

■委員　まず委員が言っていた、「子どもたちが地域のことをあまり知らない」ということですけれど、昔私が野市小学校の PTA 会長をやっていたころ、当時の野市小学校の校長先生が子ども達にどんどん考えさせて、全国の色んな懸賞に応募して環境教育で日本一になったと思うんですけれど、その時に子どもたちが街に出て色んな人に聞いて、先生たちはほとんどアドバイスしない、それでどんどん地域を知っていった。ということをやっていた。田んぼで運動会したりとか農業に関連付けて農家の人が来てくれて、それとやはり教育が大切だと思うので、学校の中で、昔は高知県のことを習ってたと思うんですけれど、そういうことを、学校も大変だと思うんですけれど、そういった地域のことを私たち自身も知らない。私たちの子どもも二十歳過ぎているんですけど香南市のことをあまり知らない。そういうような現状があるので、やはり小学校の時に何か地域のことを学ぶような機会があれば非常にいいなと思う。

そして人口に関しては、香南市は高知県の中でもあまり減っていない。これ以上はわからないですけれど、もしどんどん増やそうと思ったら子どもを中心に、市長がいつも言われているように。やはり人口が増えているのはそこだと思うので、でも十分なことを香南市はやっていると思うので、あとはどう目立つか。野市だけに人口が固まりすぎていることに対する政策は、私はわからないですけれど、香南市に来たい人はいっぱいいると思う。あとは、「子ども中心にこうやっているよ」と、たとえ他の自治体もやっているようなことであっても、目立つということ、宣伝するということが非常に大事なことかなと思う。

■委員長　　先ほどのアンケートから地域を学ぶ子ども達が、能動的に、今風に言うとアクティブラーニング的に、どういう風にやっていくか、益々今回の３年間、４年目に入るアンケートを学校教育現場や子ども達の当事者意識的なところにいかに働きかけをやって、そして当事者としてどういう風に取り組んでいけるのかを総合的な学習等で時間を使って教育現場に落としこんでいただくと全く違う変化が起こる。当時の校長先生の話を上げていただきましたが、まさにそうでしょうね。さっきの具体的な方法論として、是非今のご意見を参考にしていただき、それと「目立つ」ように、市長のトップセールスを含めてできるだけ今の取り組みを広報していくということだと思う。そのことが、他地域からの評価として地元に跳ね返ってきたときに、地元の認識って劇的に高まりますもんね。そういった大きなアクションとリアクションの相互作用的なところにまで繋がるといいですよね。

■委員　　私は、アンケートを自分が答える立場で考えた時に、子どもの時の知識量だと、はっきりこうだから「はい」を選ぼうと理由を持って選ぶことができる項目ってそんなにないのではないかと思った。特に、農業のところなんかは近くにミカンのハウスがあるし、「はい」かな、という感じで選んだんじゃないかなと思うのですけれど、逆に言うと「いいえ」って答えた人は、きっと何か強い理由を持って、これがあるから絶対「いいえ」だ、という形で選んだのだと思う。ということは「いいえ」を選んだ人がなぜそれを選んだのかという理由を深堀りしていくと、もうちょっと魅力を感じてもらえるきっかけになるのかなという風に私は思った。

各項目、他のところでいえば「夢や希望する仕事をできますか」というところで「はい」を選んだ子はきっと何かやりたいことがあって、香南市でこれはできると思ったから「はい」を選んだと思うので、そういった各項目に対して、この子はなぜこれを選んだのだろうというところを深堀していっていただきたいということが一点目。もう一点は、農業に関することですけれど、小学生・中学生と比べ、これから仕事を選ぼうと思っている 18 歳の子たちは、農業に魅力的かと問われると、残念ながら「はい」という子どもは減っている。やはり仕事としての農業の方は厳しいと感じているんじゃないかなと思う。実際に、農業では、私のやっているニラなんかは、現在、日本一ですが、今年はすごく暑かったのでニラの品質が下がって全国的な流通量が非常に低下しまして、昨年よりも肥料代なども上がってますけれども、単価が今年はすごく下がった。これだけ暑い夏が続くと、近い将来夏に高知県ではニラを作ることが恐らく無理だろうという風にも言われている。ですので、近い将来ニラは日本一ではなくなるという可能性もあるので、そうなってくると本当に香南市で農業する人は少なくなっていくんじゃないかなと思う。ですので、本当に危機感を感じていますので、どうにか、みんなが農業をしたいと一気にみんなが思えるような施策をしないと 10 年後は壊滅的な状況になってしまうのではないかと思う。そういった意味で、具体的な案は出せないものの、早く何かしらの手を打たなくてはいけないと思ってい

る。

■委員長　　アンケートの深堀りは重要。このアンケートを活かし切るという意味では、今のコメントいただいた点についてはぜひお願いをしたいところである。そこから個別に意見を引き出せることになると思う。後半の方は本当に深刻だと思う。農業の魅力を伝えるということと、一方で現場で不安の要素があるとすると、そこを改善しない限り農業への就農者を引き寄せていくのは難しいと思う。しかしこれだけ毎年異常と言われていたものが正常に感じられるくらいの地球の温暖化、これは避けて通れないと思う。品種改良、さらに作物をどうするか、ここも考えなければならないくらい深刻である。これは今後、研究の部分も含めて考えていかなければ、未来には備えられないと思いますので、今の意見というのも私たちも頭に置いておきたいと思う。ありがとうございます。順番に来ていますので、委員ぜひご意見を。

■委員　　私は香我美町に住んでいます。一番下が保育所、真ん中が幼稚園、一番上が今年小学生になった。昨年度の５月に私が育休から復帰した際、幼稚園は文科省の管轄ですので夏休みに入る。給食が止まってしまうので、家庭からお弁当を持参していたんですけれど、ちょっとしんどいという声を市長さんに届けた。そうしたらすぐに引き受けていただいて、その年の夏休みからすぐに委託のお弁当に変えていただいた、という当事者としての実感があったので、声を届けていければ聴いてくれる香南市という思いでお話をさせていただく。

保育所と幼稚園・小学校とはちょっと異質。「4 歳になったら必ず幼稚園に行かなければならない」というような香我美町の実態がある。幼稚園は先生たちも優しくて、保育内容としても何の文句もないところですが、同じ子育てをする中で枠組み自体に、「なぜなのだろう」と思うことがある。私たち夫婦は共働きのため、就労で保育認定を受けていますが、幼稚園に行っているので、「時間内でしかお預かりできません、夏休み期間は預かり保育になります」という形で先生たちに言われる。保育園に預けていれば、お盆休みはあるものの、年少であれ、年長であれ、ずっと保育を続けてくれる。保育園では、「仕事が休みの日は家で看てあげてね」とは、あえて言ってこない。先生方も「幼稚園だから、仕事が休みの日は家で看てあげてと言わねばならない」そういう話を保護者に言って来たりする。保育所にはそんなこと言われないのにという実感があったりする。また、幼稚園なので、幼稚園認定で来てるお子さんもいるので、幼稚園の帰りは 14 時である。保育園では、給食が終わるとお昼寝の時間になるので、12 時前後にはどの学年もお昼寝となる。幼稚園にいる香我美町の子たちは 14 時までは、みんなと活動し、14 時帰りの子たちとさよならした後、14 時から布団に入る。そうなると、3 歳まで保育園に通っていたうちの子は、3 歳になると体力がついてきてお昼寝せずに帰ってくることも多かった。12 時ぐらいに布団に入っても目が覚めているから寝れない。寝なさいと言われても笑って寝ずにそのまま帰ってきて、夜ご飯を食べてそのまま寝るというのがあった。一方で、幼稚園の場合だと

14 時に布団に入ると嫌でも眠くなってお昼寝する。しかし、体力もついてくる 4 歳・5 歳になると今度は夜寝なくなる。一生懸命寝かそうとして、保育園などからすくすくリズムで頑張って 21 時までには寝かしましょう、子どもたちも 21 時までに寝ましょう、という取り組みがあるものの、14 時からお昼寝をしているので寝れない。それでも寝かしつけはしなければならず、結局 22 時くらいまで寝れない子どもを頑張って寝かしつけてから、自分の用事をはじめないといけない。次の日も仕事だし、やることもたくさんあるというループに入ってしまう。幼稚園という枠組みにいるから、どうしても子ども達の生活リズムがそこで一回区切らないといけない。14 時に帰る。14 時からお昼寝をする。15 時に起きておやつを食べる。というような生活リズムを強いられる、というと強い表現になってしまうが、そういう生活になってしまう幼稚園が香南市にはまだある。香我美町の場合は、どうしてもそこしか選べない。野市町だったら、保育所と幼稚園とが選べる。5 歳まで保育所に行くのか、それとも幼稚園に行くのか、という風に選べるが、香我美町では選べない。4 歳になったら幼稚園しかないので、幼稚園に行くしかない、というのがなかなか辛いところである。他にも、野市町のお母さんたちに話しを聞くと、「土曜保育をどうして野市は半日しか看てくれないのだろう、香我美は一日看てくれるのに」という声もある。すごくありがたく充実した保育施設や環境を整てくださっているのはわかるが、それを香南市内で一律にしてもらえるともっと嬉しいのに、と思うことがたくさんある。ということを、この機会にお伝えしておきたかった。

■委員長　市に声が届くという事でしたが、本日のご意見も、皆さんにお聞きいただいているところである。一気にはなかなか難しいかと思いますが、是非、今のご意見を受け止めていただいて、今後に向けてご検討いただきたいと思う。

せっかくなので、本日、委員に初めて参加していただいておりますので、何かご意見を頂けたらと思う。

■委員　簡単に２点ほどご質問させていただく。人口を増やしていくということは、本日の資料２で見せていただきましたが、子育て世帯にどれぐらい転入していただくかということだと思う。金融機関の立場からすると、野市は特にそうなんですけれど、香南市は高知市・南国市に比べても土地が安いというところで、新築の住宅を建てるのにもかなり金額的に恵まれた金額になるので、若い世代のご夫婦がローンを組みやすいということもあって、資料でいただいたように人口がすごく増えてきているのだと思う。この傾向は続いていくのだと思いますけれども、私が支店の若い行員たちや、お客様と話していく中で、香南市で家を建てるメリットとして、子育てするのにほとんどお金がいらないという話を何度か聞いたことがある。具体的にどこの何がいらないという内容までは聞けていないが、おそらく私が高知市で経験したことでいうと、共働きだと保育料が非常に高いだとか、給食費がかなりかかったり、コロナ等でもらえる給付金等が収入制限に引っ掛かってもらえないなど、色々なことがありますが、そ

ういうところできっと香南市では恵まれている部分があるのではないかなと想像している。本日の資料で、新婚さんに 30 万円まで補助金があること等、プラスの面のアナウンスが非常にされていると思いますが、費用負担でこれはいらないだとか、金銭的なことは非常に若い世帯には響くと思いますので、その辺のアナウンスをうまくするとさらに新築増に繋がっていくのではないかなと金融機関の立場から思うのが一点である。

もう一点は非常に個人的な話になるんですけれど、自分が音楽をしているもので、毎年、天然色劇場で年に一回音楽フェスに出させていただいている。その運営について話を聞くのですけれども、ちょっとお金がかかりすぎる。天然色劇場は非常に素敵なステージで、特に夕方から夜にかけて海を見ながら演奏するのは本当に素敵な場所で、演奏する側からするとすごく素晴らしい場所なんですけれども、あまりお金がかかるとなかなか出にくいというところと、あの施設がどれだけ効果的に活かされているのかというところを見直すようなことがあれば考えていただきたい。天然色劇場が活性化すると天然色市場ももっと収入増につながるではないかという風にも思いますし、子育て世代にということであれば、例えば子ども達が中心になるイベントにはかなり利用料を下げて集客をするという風にするとか、利益がもっと見込めるようなプロの方たちを誘致するときにはそれなりの料金をいただくというようなやり方を考えていただくといいのかなと個人的なことですけど、考えた。

■委員長　子育て環境として先ほどの補助という話と、同時に色んな意味で比較をした時にメリットの部分って色々あるのではないかというお話ですけれども、それに関して市側はいかがか。

■市長　香南市では、まず医療費は 15 歳まで無料。その他、子どもたちが利用するものであったり子育て支援策というのは高知県の中でも最もやっている市町村の一つだと思う。私に直接そういうお声もかかってきますし、私自身も発信したいですし、それをもう少し来年度に向けて市としてきちっとした形でお見せできるようなことを、現在、企画財政課と一緒になって進めている。それをもう一段階、香南市とはどういうまちなのかというのを見せていけるようなやり方をやっていきたいですし、実際に今考えている。この際なのでまとめて色々お話しさせていただくと、先ほどのお話しもありますが、私自身がすぐできることは率先してやろうという風に思っていますし、それが昨年、たまたまではありますができて良かったと思う。やはり香南市として地域によってサービスに違いがあるというのは、合併して 17 年経って、それぞれの公共施設であったり様々なものが合併以前のままであるというのが続いている。天然色劇場の利用に関しても、吉川村時代からほとんど変わってないという風に聞いている。そういったことも含めて全体として香南市を一つにしたい。一つにならなければいけないと感じている。10 年、20 年先のことを考えたら、今できることは整理して、香南市のあらゆるサービスやこれまでやってきたことをできるだけ一つとして取り上げて

いきたいという思いで、公共施設のマネジメントを今年度から始めた。それにプラスしてＤＸ・デジタルというものをさらに加えることによって、もう一段階利便性の高い公共サービスに繋がるのではないかという風に本年度から始めた。５つのまちが合併してスタートしたというのは、例えば２つや３つのまちの場合とはまた違う難しさがあったのだと思いますし、そしてコロナというものもあってなかなか進まなかった。しかし、今のところは我々香南市は、子どもたちや全ての市民の方々へのサービスが、一定、やりたいことはできておりますが、このままずっと維持して行くためには、どこかを新しくしていかなければならないという中で、公共施設のマネジメントは一つの大きな柱として、それに付随して子育て、農業もある。子育て支援に関しましては、国も「こどもまんなか社会」ということで進めています。例えば先ほどの話であれば、仮称ではありますが「子ども誰でも通園制度」と、こども家庭庁の方で出していることなんかも、そういったサービスの一元化に繋がるのではないかと、まだ私自身も詳細は把握しておりませんが、そういう国の動きも捕えて、一緒になって香南市版を作り上げていきたい。ただ、国も県もそこのところがガイドライン含めてしっかりとしたものができてませんので、我々が先行するのではなく、極力、国と県と足並みをそろえた形でやって行きたいなというのはこども課含めて、各課がそういう姿勢で行こうということで進めている。

個人的には、農業ということに関して、この一年半市長としてやってきて「こどもまんなか社会」という自分が描くものと一次産業、特に農業とをどう結びつけるのかということで考えておりますが、今私の中では一定の道筋と言いますか答えがある。

しかし、まだそれをするには様々なクリアしなければならないハードルがある。それは我々市役所自身もそうですし、農家の皆様にとっても非常に考えていただき、ご協力いただかなければならないことがある。今、農林水産課と一緒になって様々なハードルを一つ一つクリアしていく取り組みをしている。来年度に一定のお示しができればと考えている。10 年後に向けての取り組みを実は始めているところですので、もう少しお待ちいただければと思う。

■委員長　子育て環境に関してのメリットをいかに見える化するか、また、公共施設の天然色劇場を取り上げていただきましたけど、それについての見解を市長からお示しいただいた。すでに検討がなされているということで、期待をしていただきたいと思う。予定の時刻を過ぎてしまいましたので、本日の令和５年度第１回目の総合戦略策定委員会については終了したいと思いますが、よろしいか。

まだ委員の皆様は色々ご意見もおありかと思う。これについては、継続して委員の皆様から総合戦略に関してお気づきの点、さら本日発言できなかった要望等、直接またお伝えいただいて、総合戦略の推進に是非活用、又活かしていただければと思う。そういう意味では、今回に関しては委員の皆様から異論は聞かれなかったということと、アンケート等についてはさらに踏み込んでいく次の手、ここがポイントになるというご指摘をいくつかいただきましたので、是非対応していただけたら幸いである。

私からは議事は以上とさせていただきまして、事務局の方からその他についてお願いする。

６．その他

（１）今後の策定委員会のスケジュールについて

７．閉会